

「ばかりじゃつまんない —「お手紙」(二年)—

佐賀大学教授 達富洋二

◆子どもが言葉に立ち止まるために

主体的・対話的で深い学びを実現するためには、単元を通して言語活動を位置づけることが必要です。さらに、子どもが言葉の意味の広がりや使われ方に立ち止まり、学びがいを感じるためには、「言語活動の下ごしらえ」としての語彙学習を計画することが有効です。

◆語彙学習への切実性

単元を通した言語活動を行うには、学習課題によって、言語活動が単元の初めから終わりまでつながっていることを子どもが自覚し、見通しをもって進めていくことが必要です。そして、その過程で「こんな言葉が欲しい、この言葉がふさわしいか確かめたい」と、子どもが切実に言葉の学習を求めることが必要です。そのような切実性のある単元をつくりたいものです。

◆単元づくりの実践

「お手紙」をもとに、単元づくりの事例をご紹介します。教科書には「だれが、何をするか、どんなことを言うのかに気をつけて読み、音読げきをしましょう。」と示されています。今回は、学級の傾向と作品の特徴を生かして、言葉を見つめる語彙学習の機会にしたいという指導者の意図から、教科書の単元計画を微調整しました。実際には、言語活動を「だれが、何をするか、どんなことを言うのかを、他の表現に書き換えること」に変更しました。作品の特徴として、登場人物の会話に続く表現が「言いました」と「たずねました」が多いため、「言いました」を書き換えることで、音読劇と同じ効果があると考えたからです。

学習課題は、「この単元では、がまくんやかえるくんの行動を想像することができるようになる学習をします。課題は、『がまくん

やかえるくんがいろいろな場面で言ったことやしたことを関連付けて、「言いました。を詳しく書き換える」ことです。』と伝えました。

◆単元計画(全6時間程度)

1 単元の見通しをもつ。

(1) 学習課題を何度も読む。

(2) モデルをきちんと読む。

(3) 《私の問い》を立てる。

2 「言いました」の仲間の言葉を集める。

3 作品を何度も読みながら、仲間の言葉をもっと集める。

4 書き換えたい場面を選んで、仲間の言葉に当てはめながら何度も読む。

5 書き換える。発表会の練習をする。

6 発表会を通して「お手紙」を味わう。

7 単元の振り返りをする。

(1) 学習の振り返りと作品の振り返り。

(2) 力を確かめる(試験)。

*初めて読む作品の「」の続きを書き換える。

◆学習の実際

作品の会話文に続く部分を空白にしたワークシートを示し、「言いました」に当たる部分を他の言葉で書き換えるという言語活動をすることを説明しました。作品全体をいくつかの部分に分けて示したので、子どもがそれぞれ選んで書き換えることに取り組みました。もちろん自分たちがすでもっている「言いました」の仲間の言葉(類義表現)を共有したり、それらをカテゴリ化して整理したりする過程も設けました(学習活動2)。結果は

表の①の通りです。

子どもは、言葉集めや言葉選びに取り組みましたが、多くは「言いました」という書き換えでした。そこで、下ごしらえの語彙学習として、さらに言葉集めをしてから、もう一度書き換えることにしました(学習活動3)。どのような言語活動をするのかを理解してからの言葉集めは、これまでの集め方とは質が異なり、知らない言葉を集めることから、使いたい言葉を集めることへ意識が変化しました。

そして、再度、書き換えたものが②です。

①と同じ子どもたちが書き換えたものです。

依然「言いました」という書き換えも多い

◆言葉に立ち止まる読み手を育てる

言葉に立ち止まる読み手を育てるには、立ち止まりたくなる魅力的な「きっかけ」と、立ち止まってよかったと思える「自己表現の場」が必要です。「きっかけ」は学習課題、「自己表現の場」は言語活動です。

対応する会話文		児童A		児童B	
12ページ		1		2	
3行目	「がまくん」	かえるくんががまくんをよびました。	かえるくんが ※児童の記述ママ。	かえるくんががまくんに声をかけました。	かえるくんはがまくんに近よりました。
5行目	「ひょっとして、……」	やさしく言いました。	がまくんにこっそり言いました。	思いなおすようせつめいしました。	がまくんのかおをのぞきました。
7行目	「そんなこと、……」	がまくんはきつぱりと言いました。	がまくんはかえるくんのかおを見ました。	がまくんはおくるように言い切りました。	がまくんはちがうほうを見ています。
9行目	「ぼくに……」	むりむりというように言いました。	こんどはおくをみながら言いました。	あきらめたようにつぶやきました。	ぼそつぶやきました。
13ページ		2		児童A	
3行目	「でもね、……」	もういちどかえるくんは言いました。	かえるくんはがまくんのちかくにいて言いました。	かえるくんはあきらめません。	がまくんが言うまにに言いました。
5行目	「きょうは、……」	かえるくんは本当はしっているのに言いました。	ねってゆうかんじで言いました。	じしんをもつてなだめました。	いきいきとからがまくんを見ました。
7行目	「はからしいこと、……」	また、むりむりというように言いました。	がまくんは ※児童の記述ママ。	がまくんは、ついにどなりました。	がまくんはもとなにか言いたそうでした。
9行目	「今まで、……」	もったいからというように言いました。	ちよっとおこりながら言いました。	がまくんはためいきをつきました。	ほんととはがうことをつぶやいてしまいました。